

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900156		
法人名	ルミナス株式会社		
事業所名	グループホーム ひかり千葉船橋		
所在地	千葉県船橋市東船橋2-17-17		
自己評価作成日	令和3年3月22日	評価結果市町村受理日	令和3年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和3年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人にひかりを」の理念の下、ご入居者、ご家族、スタッフがそれぞれ力を合わせてそれぞれにとって最適な「生活の場」づくりを行っています。
 ご入居されている方々の意向を都度確認して一日の生活設計を各スタッフがを行い、一人ひとりのそのひとらしさの実現に向けてケアを行っています。コロナ禍の影響で外出イベントを自粛しているが、ホーム内での食事イベントは季節を感じられるイベントを実施しています。
 より働きやすい環境や自己課題に向き合えるように、原則3か月に1度スタッフと上長にてOJT面談を実施し、自分の課題や目指すべき目標をブラッシュアップしケアに活かします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の優れている点は①職員意見によるスローガン「感謝の気持ちを忘れずにお互いを思いやり一緒に笑顔で楽しいホームを目指そう！」を目標に掲げ取り組んでいる。②ボトムアップによる職員意見を大切にした運営が行われ、カンファレンスでは職員提案が議題にされ、サービス向上につながる意見交換が行われている。③協力医療機関の内科クリニックが隣接しており、また、コロナ禍ではあるがZoomによる家族面会や電話の取次ぎが行われ、家族や利用者の安心を得ている。④散歩時に近隣住民と挨拶を交わし、近所の飲食店からデリバリーを利用するなど地域と共に生活できるよう取り組んでいる。⑤3か月ごとにモニタリングを実施し、次の介護計画に反映するPDCAサイクルが繰り返され、職員全員が介護計画を意識したケアが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない(コロナの為)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが(コロナの影響) 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念「人にひかりを」を掲げ、利用者が穏やかに暮らし、ご家族も安心し、職員がより良いケアを目指し共有して実践につなげるため、チームでホーム目標を策定し取り組んでいる。	法人理念「人にひかりを！」の基「感謝の気持ちを忘れずにお互いを思いやり一緒に笑顔で楽しいホームを目指そう！」をホーム目標に掲げている。一人ひとりの生活を大事にし、できることは自分で行うなどの利用者の自立支援に力を入れている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策の為、外食・買い物へは出かけていないが、散歩にでかけ、地域の方と接する機会を持っている。また、自治会に入っているがコロナ禍の影響もあり、今年度の交流はあまりない状況である。	コロナ禍以前は日々の買い物での交流やボランティアの来訪などが行われていた。自治会に加入しているが活動自体がなく、交流の機会が少ないのが現状である。散歩時に近隣の方々と挨拶を交わし交流の機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けての認知症サポーター講座や認知症カフェ等の取り組みは今年度はコロナの影響もあり現状行えていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、話し合いが行われてはいないが、2ヶ月に1度包括支援センターと連絡をとりホームの報告書を作成・提出をしている。報告書をスタッフ間で共有しサービス向上に活かしている。	書面による運営推進会議が開催され、2カ月ごとに主な活動、事故・ヒヤリハット、コロナ感染症対策等を地域包括支援センターに報告している。以前会議に参加されていた民生委員、地域代表には電話で概況を伝えている。	書面開催であるが、報告だけではなく「意見用紙」なども併せて送付し、意見やアドバイスを得てサービス向上に活かす取り組みが望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為、定期的な訪問ができない状況ではあるが、行政上必要な手続き・報告時には訪問・連絡し相談を受けている。	市の指導監査課とは連絡を密にし、事故報告等事業所の状況を伝えアドバイスを得ている。介護保険課からは感染症対策など、事業所の抱える課題についても随時相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、指針を周知。3ヶ月に1回の会議に開催、内容をスタッフに共有している。	「行っちゃだめ」など行動制限につながる言葉かけや「語気が荒い」など不適切な対応に職員同士で注意し合っている。また、アンガーマネジメント等の研修を重ね、職員が一人で抱え込まないように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月開催のカンファレンスにて起きた事故や対応策について話しあえる機会をもっている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束廃止委員会、カンファレンスにて話し合う機会をもち、周知に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居見学や契約時を中心に行っている。それら以外にも利用者の状況変化があった際にはその都度ご家族に連絡・報告・相談をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日頃から意見があれば伺い、家族からは面会・連絡・ケアプラン説明にて意見・要望を聞き、運営に反映させている。またお客様満足度調査の実施にて家族の要望を汲み取るようにしています。	3カ月ごとに介護計画の説明を行っている為、その際に家族は意見や要望を職員に伝える事ができる。また、年1回、法人による匿名の「満足度調査」を実施し、出された要望や意見はカンファレンスで話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からカンファレンスやOJT面談で意見を聞き、運営に反映させている。また、職員満足度調査やCAPシステム(職員が外部機関に相談できる)が設けている。	ホームではボトムアップによる職員意見を大切にした運営が行われている。カンファレンスでは職員提案による環境整備などが議題にされ、サービス向上につながる意見交換が行われている。また、年3～4回個人面談が行われ職員意見を聞く機会としている。	OJT面談や職員満足度調査等により職員意識も高い。職員「自己実現」意識をさらに強く持ちやりたいことの発言が一層多くなるように期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社のキャリア制度に沿ってOJT面談の実施にて職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、昇格の投票を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実践OJTシートやOJT計画書を活用し実践している。また、自身のケアについて事例発表の機会をもっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市GH連絡会に加盟し、情報交換を行っている。コロナ禍でリモートでの参加となっているが、管理者・職員を研修等に参加させている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者とともに、インテーク面接時にご本人・ご家族から困っていることやそのような生活を望んでいるか等の情報収集を行い、ニーズを抽出し暫定プランを作成し、入居後の状況に応じて修正をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学相談受付対応や暫定プラン説明時にご家族からも直接お話を伺って、関係づくりをおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時に話を聞き、ひかりやGHの対象ではないと感じた際は、その方にあった施設等のサービスの提案をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症になってもできることを大切にしてい、ともに生活を作りあげられる様にスタッフがケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との外出(コロナ禍で実施できていないが)外部受診、携帯電話を使える方が家族と連絡をとれるように支援したり、zoom面会を実施したり、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前勤められていた会社の部下からの連絡は定期的にあり、関係が途切れないように支援に務めている。	入居前からの歯科を継続して受診されている方や職員に好物の洋茶菓子購入を依頼している方もいる。Zoomによる家族面会、電話の取次ぎや年賀状のやり取り、知人からの定期的な連絡など馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症になってもできることを大切にしてい、ともに生活を作りあげられる様にスタッフがケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、介護保険に関するご相談等を受けられる体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりにてご本人の思いや意向を確認できた際は記録に残し、ご本人の視点で考える様にカンファレンス時に話しをしている。	本人がどのような生活をしたのかというニーズを徹底的に家族・利用者本人と話し合い、どの様に取り組んで行くのか利用者と一緒に目標を設定し、どうすれば出来るのかカンファレンスで話し合い介護計画に反映させている。アセスメントとモニタリングを繰り返し、利用者一人ひとりの意向を正しく掴むように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居審査時にご本人・ご家族からお話を伺い、生活歴・暮らしている様子・部屋の環境等についての書類を記入していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録・業務日誌・サービス実施状況シートにて日々の行動や変化の情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議・ケアプラン説明を3ヶ月に1回開催し、その方の課題や願いを分析および収集し、新たなサービス評価、設計を行いプランに反映している。	「サービス状況実施シート」はわかり易く具体的に記入され職員全員が介護計画を意識したケアが実践されている。3カ月ごとにモニタリングを実施し、暫定プランを担当者会議で話し合い次の介護計画に反映するPDCAサイクルが実践されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録・食事・排泄・バイタルチェック表を記入し、情報共有・ケアプラン見直しに活かしている。また、ケアプランに基づいたケア記録の記入を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在利用されている方はいないが、より専門的なりハビリが必要な方に関して訪問リハビリを利用できるように対応する等、柔軟な支援やサービスの多様化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩の際に近隣の店舗を利用し、自分の欲しいものの買い物を実施していたが、コロナ禍の影響で現在買い物はできていない。スタッフが本人の思いを確認して対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医の月2回の訪問にて日々の様子を訪問診療医に的確に伝え、近況報告にて状況報告をご家族に行っている。	隣接のかかりつけ医による訪問診療は月2回実施され、24時間緊急対応も可能となっている。その他、精神科や眼科等の専門医への受診やかかりつけの歯科に継続受診するなど本人と家族の希望を大切にし、必要な医療につなげる支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に異変があれば訪問看護師にいつでも相談できる環境がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調に変化がある際は、訪問診療医と連携し、紹介状を含めた情報提供、スタッフからの日々の情報提供を都度行っている。退院時には病院のソーシャルワーカーとの連絡を密に取り、退院カンファレンスへのご家族の参加もできる限り行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの有無について正確に説明を行っている。また、入居後の状況報告を行いながら、重度化された際はご本人の最良なケアが提供できる施設への支援を含めた話し合いをご家族とおこなっている。	入所の際には、重度化した場合には適切な医療を受けながら必要なケアが受けられる施設への転院及び転居支援を行う旨の説明を行っている。状況変化時には、本人・家族と話し合いを行いながら、関係機関と連携し最善な支援ができるよう努めている。	本人が重度化する以前から、ACP(アドバンスケアプランニング)の視点を持ち、受けたいケア等について繰り返し話し合い、チームとして意思決定支援を行うための取り組みについて、検討を重ねていくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応マニュアルの周知・徹底と主治医への報連相を行い、実践力を身につけるべく取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2階防災訓練を実施している。昼間帯・夜間帯それぞれの対策を行っている。	倉庫には、発電機や飲料水、食料、オムツ等が備蓄され、年2回の火災訓練では、日中と夜間での想定で初期消火、通報、避難誘導訓練を実施している。今までの台風や地震での被害はないが、停電や窓割れ時の対応について話し合いが行われている。	停電などのライフライン停止や窓割れ時については、話し合いにとどまらず想定訓練を実施することが望ましい。また、地域住民との共同訓練について、計画を行い準備を進めていくことに期待をしたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスなどにて日々のケアの振り返りを行い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りはプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするようスタッフで共有しおこなっている。	管理者は、感情に言葉をのせないこと、一人ひとりをリスペクトしながら思いをくみ取ることが職員に繰り返し伝えている。言葉かけや対応は、内部研修を実施したり、カンファレンスや個人面談の際に振り返りを行い、意識の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、選択肢を提示しなるべく自己決定ができる機会をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのアセスメントを通して利用者個々のペースに合わせて実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧を行っている方もいて、その人らしい生活を支援している。定期的に訪問理美容が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け食器拭き等、認知症になってもできることを大切にして、ともに生活を作りあげられる様に行っている。	利用者それぞれが、みんなのためという気持ちを持ちながら、食事の盛付けや食器拭き、ごみ捨て等の役割をつとめている。納涼祭やクリスマス等の季節の行事食の他にビュッフェ形式やテイクアウトも取り入れ、食事を楽しむための工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量を記録に記載し、日々の一人ひとりの体調や習慣に注視し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に応じた口腔ケアの実践を毎食後に実践し、気になることがあれば記録に残し、チームで共有できるようにしている。コロナ禍の影響で本年度は定期的には来訪できてはいないが、訪問歯科の訪問にて口腔内の観察を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄リズムを把握し、誘導や声掛け等個々に合わせた支援をおこなっている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々の状況に応じて自立支援のための声かけや対応を徹底しており、全員がトイレでの排泄を実現している。排泄記録には、時間や量、身体状況の詳細を記録しながら、情報の共有を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の形状等を訪問看護師等へ相談し、一人ひとりの状況に応じたヨーグルト・牛乳などの飲食物の工夫や、主治医や訪問看護師の協力にて薬の調整にて対応し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～3日に1回は入浴できるようにお誘いしている。状況により本人の意向にそえられないこともあるが、出来る限り希望に合わせて入浴を楽しめるように支援している。	洗い場と浴槽内にはすべり止めマットを敷き、安全対策に考慮しつつ、個浴槽のまたぎもリハビリの機会ととらえて、支援が行われている。好きなシャンプーやT字カミソリの使用、一番風呂などのこだわりも尊重しながら柔軟に対応が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の睡眠サイクルを記録に記載し、一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに一人ひとりの薬剤情報提供文書がファイリングしており、各自確認できるようにしている。往診時の薬の変更についても往診記録を確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの入居前の意向や入居後のアセスメントを行い、その人らしい生活・役割や楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は毎月外食イベントの開催・近隣コンビニへの買い物を行っていたが、感染予防の為に自粛している。現状は天気のいい日の外気浴・散歩を行っている。	地域資源を活用した外食が叶わない状況ではあるが、駐車場を利用した外気浴は日常的に行われている。また、本人の希望と体調を考慮して、施設ぐるっと一周コース、公園コース、駅前交番と電車見るコースなど散歩コースを設定し、外出支援を実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は現状いないが、管理できる方への対応として一人ひとりの希望や状況に応じて、自身で支払いを出るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持たれている方は、職員の方で家族に連絡したいときはつないでいる。その他の方も希望がある際は相手に様子を伝えた上でつないでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、歩行時などに過度な障害物がないように整頓し、配置を考えている。また、皆様に聞きながら季節感を感じられる掲示やいごちの良い環境になるように努めています。	施設は回廊型で、中央にはテーブルとソファ、テレビが配置されたリビングがあり、利用者は多くの時間をくつろいで過ごしている。動線は、安全に配慮して整理整頓を心がけ、温湿度及び換気・清掃も行き届いており、快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士で過ごすことができるテーブルやいすの配置や、あえて死角を作り、1人でくつろげる場所づくりも行っている。また、自室にて過ごされる時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々生活されていた環境を感じれるように、入居時になじみのものを持参してもらえようご家族に相談を行っている。入居後、ご本人の状況に応じたレイアウトの変更もご家族に相談にておこなっている。	利用者一人ひとりの意向を大切に、今まで住んでいた自宅に近づけるよう、馴染みの椅子や布団を持ち込んだり、タンスやベッドの位置も安全面に考慮しながら、本人・家族と話し合い居室をレイアウトしている。そのため、居心地の良い空間が実現されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されている。認知症になってもできることを大切にして、ともに生活を作りあげられる様にしている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームひかり千葉船橋

作成日: 令和 3年 4月 29日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	コロナ感染対策による運営推進会議の書面での報告を行っているが、意見用紙の送付ができていなかった。	運営推進会議の報告時には意見用紙を併せて送付し、意見やアドバイスをサービス向上に活かすべく取り組んでいく。	運営推進会議の書面報告時の意見用紙を作成し、地域包括や地域代表(民生委員)の方の意見やアドバイスをいただける体制を構築し、サービス向上につなげていく。	12ヶ月
2	35	年2回の防災訓練を実施しているが、地震・水害に対する停電時やライフライン停止時の想定訓練ができていない。	火災訓練のみではなく、地震・水害時の火災訓練時とは異なる停電やライフライン停止時、避難経路の確保の想定の実行訓練を行っていく。	地震・水害発生時に起こりうる停電・窓ガラスの割れ・避難経路の確保・二次災害等、様々な状況を想定し計画的に訓練を実施する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。